

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番 77	福山市立湯田小学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月9日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○校区合同で教材研究や交流を進められ、よりわかる授業を追求している。 ○「生活につなげる」「将来につながる」授業実践を続けている。 ●課題を共有し、引き続き児童生徒に寄り添い実態に応じた取組を重ねてほしい。 ●地域とのつながりを広げてほしい。	児童生徒の現状 ○自分で目標を立て、友達と学び合いながら「考える・選ぶ・決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。 ○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。 ●家庭学習時間が少ない。スマホやゲームの利用時間が長い。	育成する資質・能力 めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	学びに向かう力 コミュニケーション力 共に学び、共に支え合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒 ○ 児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようなる。 ○ 児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○ 校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。
---	--	---	--

III 自校

ミッション 郷土に誇りを持ち、これからの社会を他者と協働しながら、たくましく、よりよく生きる子どもを育てる	育成する資質・能力	A コミュニケーション B 人としての思いやり C 課題発見・課題解決
学校教育目標 自ら考え、判断し、心豊かに行動できる子どもの育成	めざす子ども像 1・2年 3・4年 5・6年	A 人の話を聴くことができ、自分の言葉で伝えることができる。 B 友達の良いところや頑張りを見つけられることができる。 C 課題を理解し解決方法を考えたり解決しようとしたりする。 A 自分の考えをもち、順序立てて分かりやすく伝えることができる。 B 一人一人の違いを理解し、受け入れることができる。 C 課題になる事柄を見つけ、既習の内容や生活経験を使って課題解決に向かうことができる。 A 友達と自分の考えの相違に気を付けて聴きながら、筋道を立てて伝えることができる。 B 相手の立場に立って考え、立場や意見の違いによらず相手のことを考えた言動を取ることができる。 C 課題になる事柄を見つけ、様々な方法で調べたり考えたりすることを通して、よりよく解決することができる。
現状 ＜学校評価自己評価表最終時点＞ ○教材研究を基にした「導入と展開の工夫と納得解に至る授業づくりに取り組むことで、自分で「問い」を持ち楽しみながら学ぶ児童が89%となった。 ○学校行事や学校生活の中で自分自身や友達について認め合う相互評価に取り組むことで、「自分のよさ」における肯定的評価が1～3年で86%、4～6年83%となった。 ○体力向上に向け児童会企画の行事や体育委員会による運動コーナーに取り組むことにより、運動における肯定的評価が87%となった。 ○学年団、各推進部で協働的に業務に取り組むことで、職員の「やりがい」における肯定的評価が94.4%となった。 ○学校行事等の教育活動について学校だより、学年だより、校長だより等を発信することで、「学校の様子が分かる」・「安心して相談できる雰囲気がある」の肯定的評価が84.4%となった。	研究 テーマ 内容等	しなやかに思考し、生き生きと学ぶ子どもの育成 教材研究を基にした導入と展開の工夫
	めざす授業の姿	個別最適な学びを通して子ども一人一人が問いと納得解がもてる授業づくり

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	加減評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	加減評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	児童の想いや考えを大切にし、よりよいものを創る力を育成する教育活動の推進	★1	見直し	○主体的な学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学び(選ぶ、決める)に取り組む。 形成的評価(授業づくりポートフォリオ)を活用して、児童のつまずきを把握し適切なアプローチができるようにする。 発達段階に応じてプランニングシートを活用したパワーアップ学習に取り組む。 授業、朝タイム、月1回の学力補充を通して基礎学力の定着に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 【児童】意識アンケート自己選択・自己決定しながら学びに向かっている児童を80%以上にする。 【教師】意識アンケート学力調査等の分析による授業改善に取り組み、形成的評価を生かした授業づくりができていない教師を80%以上にする。 パワーアップ学習において、学習時間や自分の課題に合った学習に取り組む児童を80%以上にする。 授業改善前と比べカを伸ばした児童を増やし、40%未満の割合を減らす。(CRT/福山市学力定着状況調査/全国学力学習状況調査) 	<ul style="list-style-type: none"> 【児童】意識アンケート自己選択・自己決定しながら学びに向かっている児童は、82%である。 【教師】意識アンケート学力調査等の分析による授業改善に取り組み、形成的評価を生かした授業づくりができていない教師は83%である。 パワーアップ学習において、学習時間や自分の課題に合った学習に取り組んでいる児童は、84%である。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 全担任が、国語科、算数科の授業において、自己決定・選択場面を位置付けた単元計画を作成する。(年3回以上) パワーアップ学習で、プランニングシートを活用し、自分に合った「課題」と「目標」に向けて取り組ませる。 2学期には、全児童を対象に月に2回の学力補充、3学期には、40%未満の児童への放課後の学力補充を行う。 12月に行う、授業づくりポートフォリオの重点問題、福山市学力定着状況調査において検証する。 授業改善前と比べ、 	<ul style="list-style-type: none"> □授業づくりポートフォリオをもとに、児童のつまずきをもとに、自己決定・選択場面を取り入れた授業づくりを行った。 ◎【児童】意識アンケート83%達成 ◎【教師】意識アンケート97.3%達成 □児童が自己の学習を振り返られるように、学期ごとにプランニングシートの内容を修正した。 ◎パワーアップ学習の意識アンケート86.5%達成 ◎授業改善前と比べ89%のクラスが力を伸ばした。 国語科では40%未満の児童の割合を減らすことができたが、算数科は増えている。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> チェックシートを活用し、日々の授業で選択場面を単元に設定することを徹底する。 授業づくりポートフォリオを活用し、児童のつまずきをもとにした授業を単元に位置付ける。 学力補充では、各学年でつきたい力を明確にし、課題を達成するために学年をさかのぼってつまずきを解消していく。
		2	見直し	○よりよい自己の実現	<ul style="list-style-type: none"> 児童会と連携した積極的生徒指導の取組と声掛けにより児童のポジティブな行動を増やす。 学校行事等を通して児童同士の相互評価(ニコニコメッセージ等)に取り組む。 学びと生活(スマホ等を使う時間)について考えることを通してよりよい生活の仕方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分はよいところがある。」「自分は人の役に立っている。」と回答している児童の割合を80%以上にする。 児童会主催の行事を年間3回以上開催する。 スマホやタブレットでゲームや動画視聴をする時間を1日3時間以上の児童を30%以下にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分はよいところがある。」81%。 「自分は人の役に立っている。」83%。 児童会主催の行事(ロング大休憩)1回実施 スマホやタブレットでゲームや動画視聴をする時間を見直した児童65%。 スマホやタブレットでゲームや動画視聴を1日3時間以上の児童20% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「自分のよさを周りの人から認められていると思う」と否定的に回答した児童が31%であるため、児童の頑張りや教職員がしっかりと声を掛けたり、児童会行事として異学年交流を設定したりする。 委員会で頑張っている姿を全体で募集し、放送で紹介する。 1学期同様、メディアとの関わり方についての授業を各学級で行う。また、「メディアWeek(仮)」を行い、メディア機器とのかかわりを家庭を巻き込んで見直す期間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> □ニコニコメッセージを行事ごとに行い他学年からの他者評価を行った。 ◎「自分はよいところがある。」77%。 「自分は人の役に立っている。」81%。 ◎児童会主催の行事(湯田っ子ボックス、あいさつ運動)2回実施年間計3回実施 □メディア機器のリスクを伝える授業2回実施 メディアコントロールWeek2回実施 ◎スマホやタブレットでゲームや動画視聴を1日3時間以上の児童25% 	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ニコニコメッセージなどの他者評価は引き続き行うが、実施方法などの改善を図る。 児童アンケートでの質問内容の検討を行う。 児童だけでなく保護者にも、啓発を行う。 メディアコントロールWeekの取り組み方を改善し、啓発に取り組む。

	継続	○体力づくりに取り組む児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・選択できる運動の工夫や目標の自己決定により達成感を味わえるようにする。 ・運動する機会を継続して提供し、自分から運動するきっかけを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツをすることを「好き」と答える児童の割合を75%以上にする。 ・週2回以上体を動かす活動をした児童の割合を80%以上にする。 【児童アンケート】 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動やスポーツをすることが好き」83%。 ・「週2回以上体を動かす活動をした」78%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の単元の始めに目標の自己決定をする。その後、目標達成のための練習方法や場を自己選択できる活動を仕組む。 ・引き続き体育委員会による運動する機会の提供を行う。3学期は、異学年交流や児童から要望のあった運動を企画実行する。また、児童会と連携し、外遊びに関わる月目標を設定することで、児童の意欲を高める。 	<input type="checkbox"/> 体育で児童自身が自己目標を決定し、練習方法を工夫した。 <input checked="" type="checkbox"/> 「運動やスポーツをすることが好き」な児童の割合84%。 <input type="checkbox"/> 体育委員会による異学年交流を週1回程度実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> 「週2回以上体を動かす活動をした」児童の割合79%。	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の単元づくりの研修や理論、実技研修を実施し、実践する。 ・体育委員会の活動を活性化させる。
3	見直し	○組織的に支え合う教職員集団づくりの構築 ○保護者・地域に信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・主任、主事が中心となり、各個人が役割を認識して補い合う組織づくりを行う。 ・学校の様子を定期的に発信する。 ・児童の状況の把握に努め素早く対応できる組織体制を整える。 ・地域との繋がりを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【教職員アンケート】やりがいを感じる教員の割合を80%以上にする。 ・学校だより年12回、校長発信、年10回以上。 ・【保護者アンケート】年2回のアンケートを行い「安心して相談できる雰囲気がある」の肯定的な割合を85%以上にする。 ・地域の方と学ぶ体験活動を各学年、年1回以上取り入れる。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・やりがいを感じている教員の割合97% ・学校だより6回、校長発信5回発行 ・安心して相談できると回答した保護者の割合85% ・2年生野菜づくり、3年生福祉体験、5年生バラの挿し木などで地域の方等にきていただき活動した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、主任・主事を中心に部会で協議や役割分担を行い、一人一人が自覚を持って分掌に取り組めるようにする。 ・月1回を目安に定期的に通信を発行し、HPの更新を行う。 ・学年主任、生徒指導主事、管理職等への報告、連携を確実に、組織での丁寧な対応に努める。 ・各学年、生活科・総合的な学習の時間の年間計画に地域との連携を位置付け、効果的な活動になるよう計画的に取り組む。 	<input type="checkbox"/> 企画委員会、四推進部会で主任を中心に教職員が協議する場を月1回以上設定した。 <input checked="" type="checkbox"/> やりがいを感じている教員の割合97% <input type="checkbox"/> 児童の活動の様子、保護者への啓発等を定期的に行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 学校だより月1回、校長発信9回発行、HPで発信 <input type="checkbox"/> 生徒指導事案への組織的対応、保護者への丁寧な説明に努めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 安心して相談できると回答した保護者の割合92% <input type="checkbox"/> 総合やキャリア教育と関連した活動を適宜実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> 地域の方を招いての活動を各学年1回以上実施	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各推進部会連携して取り組めるよう、部会前に主任主事の打合せを行う。 ・児童の様子とともに、めざす子ども像に向かう保護者への啓発も丁寧に行う。 ・対応のフロー図等を基本とした組織的対応を行う。接遇について学ぶ機会を設ける。 ・CSの機能を活かし、地域の人材を生かした教育活動を仕組む。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がほとんど図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。